



1U ラック筐体の「UAD-2 Live Rack」。背面にはライブ・コンソールと接続するための MADI 端子、コントロール用コンピューターを接続するための Thunderbolt 端子、ワード・クロック入出力端子などを装備。電源が二重化されているのも大きな特徴だ

す。ですので、我々としては新しい市場に参入するという意識はあまりありません。ミュージシャンの“ライブ・フロー”を考えれば、「UAD-2 Live Rack」の開発はごく自然な流れでした。ただ、プロジェクトがスタートしたのは約4年前のことで、実際に製品として発売するまでにはかなり時間がかかってしまいましたけどね。

PS 「UAD-2 Live Rack」の開発コンセプトをおしえてください。

YN 実は製品名が開発コンセプトを表しているんですけど、長年ライブ・サウンドの現場で使われてきたラックの再現、これが「UAD-2 Live Rack」のコンセプトなんです。その昔、アナログ・コンソールの時代は、FOH に大きなラックが何本もあったじゃないですか。そしてそのラックを使ったワークフローも確立されていて、ボーカルにはこのコンプと EQ、ドラムにはこのゲートと EQ といった感じで使うエ

フェクトが大体決まっていた。ライブ・サウンドのエンジニアたちは、デジタル・コンソールの登場以前に行っていたこのワークフローをととても気に入っていたんです。だったら「UAD」プラットフォームで、巨大なエフェクト・ラックとそのワークフローを再現してしまえばいいんじゃないかと。当時エフェクト・ラックに入っていたアウトボードは、大抵プラグインで揃っているわけですからね。

PS 思っていた以上にコンセプトチュアルな製品で驚きました。

YN 開発にあたっては、ライブ・サウンドのエンジニアたちにどんなものが欲しいか話を訊いて回りました。すると多くの人が、「その昔使っていたエフェクト・ラックが欲しい」と言うんです。それで我々が開発すべき製品のコンセプトが固まりました。ちなみに「Universal Audio」の社長、ビル・パットナム・ジュニアの兄弟は現在もライ

ブ・サウンドのエンジニアとして仕事をしていたり、周りにはこの世界で働く人がけっこういるんです。

PS 「UAD-2 Live Rack」の機能についておしえてください。

YN デジタル・コンソールに接続して使用する 1U サイズのエフェクト・プロセッサです。セットアップはシンプルで、コンソールと MADI で接続し、コントロール用のコンピューターと Thunderbolt で接続すれば完了です。1台で 16ch の処理が可能で、必要に応じて 4 台まで併用することができます（註:44.1 / 48kHz 時。88.2 / 96kHz 時は最大 2 台）。

これだけだったら単に「Apollo」の入出力を MADI に変えただけの製品に思われるかもしれませんが、実際はそうではありません。「UAD-2 Live Rack」にはこの製品のために開発した専用のコントロール・ソフトウェア「Live Rack」が付属します。「Live Rack」は、ライブ・



「UAD-2 Live Rack」のために開発された専用コントロール・ソフトウェア「Live Rack」。タッチ操作対応で、プラグインのインサートや入れ替えなどを指先で行うことができる

サウンドの世界で使われてきた巨大なエフェクト・ラックを完全に再現したソフトウェアで、プラグインのインサートやエディット、並べ替え、プリセットの保存／リコールといった操作が直感的にワン・アクションで行えます。DAW のように、メニューからコマンドを実行したり、レイヤーを切り替えたりといったユーザー・インターフェースではありません。また、タッチ操作にも対応しているので、タッチ・スクリーンを接続すれば、ほとんどの操作を指先で行うことも可能になります。完全にライブ・サウンドに特化したコントロール・ソフトウェア、それが「Live Rack」なのです。

また、ライブ・サウンドの世界では信頼性も重要です。「UAD-2 Live Rack」は電源を 2 台搭載し、万が一コンピューターや「Live Rack」にトラブルが生じた場合でも、最後のオーディオ処理がそのまま行われる設計になっています。

PS DSP「SHARC」は何基搭載しているのですか？

YN 4 基搭載した QUAD 仕様で、コンフィギュレーションはこの 1 つだけです。使用できるプラグインの数と価格とのバランスを考えると、QUAD がベストだろうという判断です。チャンネルあたり最大 8 つのプラグインをシリアル接続することができます。

PS コンソールとの接続フォーマットに MADI を採用した理由は？ Dante や AVB といったネットワーク・フォーマットは検討しませんでしたか。

YN MADI が最もシンプルで、チャンネル数も十分、接続も安定していますし、何より IP ではなくオーディオのフォーマットだからです。その昔、エフェクト・ラックとコンソールは太いマルチ・ケーブルで繋がっていましたが、それが MADI になったイメージで



6 月、東京・秋葉原のライブ・ハウスで発表会が行われ、そこでは「ヤマハ CL5」との組み合わせでデモが行われた

すよね。もちろん、ネットワーク・オーディオのフォーマットも検討しましたが、この製品のコンセプトには合わないという判断です。

PS コンピューターは、Mac / Windows 両対応ですか？

YN いいえ。現時点では Mac のみの対応です。Thunderbolt は 3 だけでなく、1 ～ 2 も大丈夫です。

PS 既存の UAD プラグインは、すべて使用できるのでしょうか。

YN ごく一部対応させていないものもあります。例えば、マスタリング用のリミッターとか。そういうプラグインは先読み処理のためにレーテンシーが大きいんですよ。なのでライブ・サウンドの現場では使いものにならないと思い、あえて対応させませんでした。しかしほとんどのプラグインは対応しています。

PS 最近はレコーディングとライブ・ミックス、両方の仕事をこなすエンジニアも増えています。既に「UAD」プラットフォームの製品を使っている人は、所有しているプラグインをそのまま「UAD-2 Live Rack」でも使用できるのでしょうか。

YN もちろんです。「UAD-2 Live Rack」をアカウントに紐づければ、プラグインはそのまま使用できます。た

だ、「Console」ソフトウェアと「Live Rack」ソフトウェアは共存することができないので、コンピューターは別のものを用意するかパーティションを分ける必要があります。

PS 最後に、この記事を読んでいる人にメッセージをお願いします。

YN プロダクションの世界で人気のある UAD プラグインが、遂にライブ・サウンドの現場でも使用できるようになりました。「UAD-2 Live Rack」は、コンソールとエフェクト・ラックを組み合わせた昔ながらのワークフローをデジタル環境で実現しますので、興味のある方はぜひ試していただきたいですね。プラグインの中では特にリバーブ系がおすすめです。「UAD」プラットフォームには、「Lexicon」や「AMS」など優秀なリバーブ・プラグインがいくつも用意されていますし、リバーブというエフェクトは音の世界観を変えてしまうだけのパワーがありますからね。

Universal Audio
UAD-2 Live Rack
市場実勢価格: UAD-2 Live Rack Core
340,000 円 (税別)
UAD-2 Live Rack Ultimate
670,000 円 (税別)
問い合わせ: 株式会社フックアップ